



説教要旨「恵みを分かち合う喜び」

ルカによる福音書 12章 13～21節

今から400年近く前、1620年の秋、イギリスからアメリカに「メイフラワー号」という船が出航しました。その頃のイギリスは国教である英国国教会が人々の生活を支配していて、国教会以外の教会は虐げられていました。ピューリタンなどと呼ばれる当時の国教会の在り方に反発した人々は、信仰の自由を求めて新大陸アメリカを目指したのです。

メイフラワー号は66日の航海の末アメリカの東海岸に到着しました。そして現在のマサチューセッツ州にあるプリマスという土地に上陸したのですが、ちょうど冬の時期で食料も乏しかったため、入植者の半分近くの人たちが、最初の冬を越えることなく死んでしまったのです。この困窮する入植者たちを助けたのが、かつてはインディアンと呼ばれたアメリカ先住民の人たちです。この親切な先住民たちは、狩猟や作物の育て方を彼らに教えました。やがて秋になって初めての収穫を迎えたとき、入植者たちは収穫感謝の礼拝をささげ、助けてくれた先住民の人たちを招いてお祝いをしたのが、キリスト教会で今も守られている「収穫感謝祭」の起源です。

イエス様は「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい」。こう言って一つのたとえ話を話されました。倉を取り壊してより大きな倉を建てなければならないほどの有り余る収穫を得た金持ちの話です。収穫を全部しまいこんで喜ぶ金持ちの男に、神様が「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前の用意した物は、いったいだれのものになるのか」と言われるのです。この金持ちは、自分の持っているものによって生きることができると考え、自分自身へと富を積んだのです。本当に必要なのは、神の前に豊かになること、つまり神様との関係における豊かさをこそ求めることです。

神の前に豊かになるとは、イエス・キリストの十字架と復活によって与えられた神様の救いの恵みを信じ、それにあずかって生きることです。それは、与えられた恵みを自分のためにため込むのではなく、イエス様がそうしてくださったように、その恵みを隣人と分かち合う生き方です。

(2022・11・20 収穫感謝日礼拝 説教者：稲垣真実)